○９番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可を得ました山口良広です。どうぞよろしくお願いします。

私は今回の質問では、まず、食料、農業問題を取り上げたいと思います。

食料サミットも終わり、食の安心・安全が叫ばれています。それと同時に、中国製ギョーザ中毒事件もあり、消費者の目は少々高くても安全な国産品がいいと、ありがたい言葉です。それが生産者の所得増にまで及んでいるかといえば、そうでありません。その値上げの分は中間の流通経費に吸い取られてしまい、最上流部の第１次産業にまでは届いていないのが現状です。むしろ今、イカ釣り漁船が一斉に休業に追い込まれるように、施設園芸農家はガソリン値上げ以上のＡ重油の値上げ、ビニールなどの資材の値上げ等で所得は減少しているのが現状です。また、畜産農家にしても、飼料の値上げなど悲鳴が聞こえる現状です。

そんな農業問題を取り上げたいと思います。

次に、工場団地の造成です。

この前の佐賀新聞の報道によると、県内の工業用地は完売状態になりつつあると言っています。そこで、今議会に提案されている工業団地構想をお尋ねしたいと思っています。

そして、それに伴う道路整備が充実されることにより、武雄市内からの通勤が楽になり、定住人口がふえることを希望するのです。

そして最後に、今議会でも問題になっている後期高齢者医療制度です。

中身の問題は私なりの意見は持っていますが、今回はまず、健康な老後を送るためにはを取り上げてみたいと思うのです。

健康な老人がふえれば、医療の問題は大分好転すると思うのです。それらを私なりに議論したいと思うのです。

前置きが長くなりましたが、農業問題から始めたいと思います。

皆さん御存じのとおり、トウモロコシを中心にバイオ燃料に変わり、また、中国やインドの経済発展に伴い食生活の改善などにより、また、投機マネーによる食料価格の高騰と、世界の食物等が値上がり続けています。その結果、中東やアフリカなど、貧しい人たちが食料を求めて暴動を起こし、死傷者まで発生しています。また、１月末の中国製ギョーザ中毒事件もあり、今、国民の目は食の安全、安定供給を求めています。

そんな中、農業政策の基本的な方向を示す「21世紀新農政2008」の提言では、１、国際的な食料事情を踏まえた食料安全保障の確保、その中で、国内における食料供給力の強化、米粉や飼料用米などの米利用の新たな可能性の追求、青刈りトウモロコシやエコ農産物の生産・利用促進、２、消費者の「食」への信頼確保と食生活の充実を図る施策の展開、３、国内農業の体質強化による食料供給力の確保、意欲と能力のある担い手の育成、食料の生産基盤である農地の確保・有効利用の促進、４、地方再生に向けた農山漁村活性化対策の展開、

その中では、将来的に毎年、全国120万人、１学年規模の小学生の長期宿泊体験の実施などが盛り込まれております。農林水産業と食品産業等の連携の強化、暮らしを守る鳥獣害対策の展開、５、地球環境保全に対する農林水産業の積極的な貢献と提言されています。

そこで、市長にお尋ねします。

市長は初日の市長提案説明の中で、基幹産業である農業に携わる皆さんの所得を上げないことには地域再生はあり得ないと言っておられます。私もそう思います。市内農業の振興の問題は後で議論するとして、今の日本の食料自給率39％をどう思われるのか。そして、今後、日本の農業政策はどうあるべきかと考えておられるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げたいと思います。

まず、日本の食料自給率が39％になっていると。ただ、この39％というのも本当の数字じゃないんですね。本当の数字は、私は今、カロリーベース、すなわち牛、豚、これの飼料はどこからとっているかというと、やっぱりアメリカとかブラジルからなんですね。そうなると、この牛とか豚が国産であっても、飼料がほとんど100％輸入であると、それはそのものも含めて39％の中に入っていますので、前置きが長くなりましたけど、カロリーベースで言うと、今、23％か24％と。これを私は一つの水準にしなければいけないというふうに思っています。

そうなったときに、もう危機的な状況になっていると思います。農林水産省はなかなかこの数字は使いたがらないんですけれども、ちゃんとそれはそういったきちんとした数字を出すべきだというふうに私は思っています。その上で、私はどうすればいいかというのは、これはるるありますけれども、１つは、生産者の皆さんの頑張りのほかに、これは前も申し上げましたけれども、消費者が協力をしなければいけないというふうに思っています。今、ともすれば下げろ、下げろ。生産者の――私はお米でもびっくりしましたけれども、きのう申し上げたとおり、１杯20円なわけですね。山口良広議員はもっと食べられるかもしれませんけど、１杯20円だといったときに、これでも下げろ、下げろというのが消費者のエゴだというふうに私は思います。あるいは大手の流通業者の一つのですね、ちょっとそれは言い過ぎだというふうに思っています。ただ、それを単に言っているだけではなくて、例えば、生産別で言うと、米、小麦の自給率を上げるといったときには、消費者がそれをちゃんと食べなければいけないと。要するに食べることによって、私は生産価格というのは維持できると思いますので、私もこれから当分の間は１日３食を米にするということ。それともう１つが、小麦も国産のものであれば、北方の橋下とかでいい小麦もとれていますので、そういうことで言うと、なるべく我々が国産のものをきちんと食べるということが一つ、それが農業政策

にかかわる消費者の義務になりつつあるというふうに私は思っています。

ともすれば、農林水産省は今までは生産者ばかり目が向いていたと思うんです。しかし、これからは消費者にも目を向けつつ、我々消費者がちゃんと協力するんだということが私は大事だと思っております。

種々長くなりますけれども、私は消費者の何というんですかね、義務として、これからはそれを上げていく。それと、これは言い過ぎになるかもしれませんけれども、こんな国どこにもありません。あのイギリスですら、もう回復しています。100％超していると。日本よりもはるかに農業の置かれている位置が厳しいにもかかわらず、カロリーベースで言うと100％超しているという状況下になると、先進国で日本だけが極めておかしな状況に置かれているというふうに思っておりますので、繰り返しになりますけれども、これはオール国民、県民、市民として、農業の自給率を結果的に上げていくということをしなければいけないというふうに思っております。

多くの市民の方々がこの議会をごらんになっていると思いますので、ぜひそういった意味での協力を私からも要請をしますし、私自身もそういうふうにしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

私たち生産者が思う言葉を代弁してもらったということを感謝したいと思います。朝飯でもいつでもいいですから、あと１杯、たくさん飯を食ってもらえば、大分田んなかは荒れずに済むんじゃないかと我々も思うわけです。そんなことが一番食料自給率につながると思います。ぜひそんな運動を市民挙げてできることを期待したいと思います。

次に、山つき農業地帯を悩ましているイノシシ対策についてお聞きします。

イノシシの農業被害と対策はどうなっているのかお尋ねします。

また、５年ぐらい前から捕獲頭数はどれぐらい捕獲されているのかお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほど市長のほうから米の消費の答弁をいたしましたが、水田農業の会議の折にもらった資料でちょっと参考までに申し上げたいと思いますが、ちょうど我々が、山口議員もそうですが、高校生時代の昭和40年には１人年間112キロ食べていたというデータがございます。それで、最近の平成17年度で１人年間61キロということで、半分ぐらいになっていると、そ

ういうデータもございます。これは参考までに申し上げました。

それから、お尋ねのイノシシの農業被害と対策でございますが、平成19年度でいきますと、水稲関係で面積的には4.5ヘクタール、被害額につきましては463万円となっております。それから、平成18年度でいきますと、水稲で12.7ヘクタール、被害額が1,418万円、それから、大豆が5.1ヘクタールで152万円、合計の17.8ヘクタールで1,570万円ということで、これについての対策でございますが、現在、武雄市、ＪＡ、それから農済、そこらにつきまして組織がございまして、これは武雄地区有害鳥獣広域駆除対策協議会でございまして、そこでイノシシ、あるいはドバト、カラス等の駆除をお願いしているという状況でございます。

それから、イノシシの捕獲頭数でございますが、19年度が797頭でございまして、過去５年の年間平均で見ますと、約1,000頭近く捕獲をされているということでございます。それから、県全体の資料によりますと、県全体で年平均約6,700頭の捕獲があっているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

米の消費量の問題を数字を言ってもらいましたけど、高校時代は、40年ぐらい前には年間112キロ、ちょっとどういうふうな数字かわかりませんけど、その当時、我々は金の弁当箱に腹いっぱい飯を入れて、詰めて学校に行き、それを食べて、また合い中には、また帰りにはどこかで食べながら帰ったというような記憶によりますと、やっぱり米というものをたくさん食べていたなということをつくづく思います。我々生産者も、もっと腹いっぱい食うことを考えんばいかんと。それと同時に、酒あたりもたくさん飲めばいいと思います。

今、イノシシの問題で、年間1,000頭、県内で6,700頭、これが捕獲されていても、なかなか減らない。それでも山間部に行けば竹林はやられ、芋を掘られ、何を掘られして、なかなか山つきの農業地帯というものが充実されないというのが今の現状ではないかと思っております。

それで、この捕獲に対して、１頭当たりの捕獲に対する報奨金ですかね、それはどれぐらいなのか。また、先ほど被害が出たということですけど、どれぐらいの総額の報奨金が出ているのかお尋ねします。１頭当たりと総額でお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

19年度の実績でございますけれども、先ほど申し上げました協議会の全体の決算額が1,263万円となっておりまして、そのうちに捕獲に対する報奨金が総額で478万2,000円という実績でございます。１頭当たり6,000円という単価でございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、聞くところによりますと、電気牧さくや箱わな等の補助金が大分少なくなった、減額になったという話も聞くわけですけど、その点は今、補助等はどうなっているでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

捕獲につきましては、電気牧さくとか、あるいはくくりわなとか箱わな等がございますが、これについては、19年度までは県の補助制度がございまして、20年度からは廃止ということで聞いております。

それで、19年度までにつきましては、電気牧さくが１台当たり２万1,700円、それからくくりわなが１台当たり１万円、それから、箱わなが１台当たり１万9,480円ということでなっております。

そういうことで、20年度から廃止になりますが、これについては、さきの議会でも申し上げたと思いますが、農地・水・環境保全向上対策事業等で取り組んでもらうように説明をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、電気牧さく、これは我々も使っているわけですけど、これは今度からは農地・水・環境保全向上対策事業をやっている地域じゃなからんば利用できないということになるわけですね。ぜひそれらを集落の方に説明して、対策が万全にでき、頭数が少なくなるようにして、安心して農作業ができるような形を目指していってもらえばと思っております。

それで、私は今度、今、武雄市が進めていますイノシシの食肉加工ということがクローズアップされて、ことしからやられるわけですけど、日本一おいしいイノシシ肉の加工といえば、どういうイノシシがおいしいというふうな提言をされているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、先ほどの電気牧さく等の補助金の関係でございますが、農地・水関係の対策に取り組んでいない地域も当然ございますので、これについては、協議会の予算の中で60万円程度の予算がありますので、そこら辺を活用していきたいというふうに考えています。

それから、イノシシ肉の一番おいしい時期と言われましたが、体重が約50キロぐらいで、

年齢が２歳から３歳ぐらいというのが一番上質な高級な肉ということで聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もイノシシは大分調べました。いろいろ聞いたり、自分でも食べておいしいのは、雄よりも雌です。雄の場合は、二、三年とありましたけど、さらに前のものがおいしいということになっています。

それとイノシシの場合は、牛とか豚とかと比べると個体差が非常に大きいといったことで、それを埋め合わせるために、ハムとか、そういった加工品で出していくというのは一つ選択肢としてはある。

それともう１つが、各県別で言うと、鹿児島、宮崎、京都、兵庫が不足ぎみだといったことですので、そういったところにきちんと出していくといったことも、販路もあわせて、どういったのが欲しいかということも含めてしなければいけないなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

前にお聞きしましたように、今、被害もふえている。必要なときに必要な上質のイノシシさんをどうやって集めるか、それが日本一おいしいイノシシ肉の産地になり得るポイントだと思うわけです。

そこで、今、市内にはどれぐらいの猟師さんがおられるか、そしてまた、そのうちに猟を本格的にやっておられる方がどれぐらいのパーセントおられるのかということを思うわけです。私はどうしても今イノシシわなあたりが、一時期は一生懸命とった方も、箱わなあたりが余り有効利用されていないこともあるんじゃないかなと思うわけです。それらをうまく有効利用して、たくさんのイノシシをとるような形ができないかなということを考えるわけですけど、今現在、市内には猟師さんはどれぐらいおられて、先ほどの１頭6,000円の報奨金をもらっている方はどれぐらいの割合でおられるか、もしわかったらお聞きしたいんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

市内での猟師の登録者につきましては101人、それから、先ほどの報奨金を受け取った方につきましては、そのうちの63％の方が受け取っておられるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、101人おったら、63人といえば、大半の方が猟を一生懸命されているというふうに解釈していいんじゃないかなと思います。

そこで、それと同時に、このイノシシ問題で一番大きな問題は、捕獲したイノシシをどういうふうに処分するかということが、とれはしたものの、これをどう処分するかということを一番悩むわけです。以前は解体して地域の方に配れば喜ばれて、それが食になるというような形があったわけですけど、今はどうもそれが敬遠されがちであるわけです。

その点、前の議会でも質問しましたけど、繁昌の杵藤クリーンセンターあたりの焼却処分も含めて、現在、市内ではどういうふうな処分が行われているかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

イノシシの処分でございますが、今までは埋設、埋めるですね、それから自家消費として処分をしているということで、先ほどの杵藤クリーンセンターにつきましては、そこでの処分は今のところできないということでございます。

今後でございますが、先ほどありましたように、ことし、国の補助金の申請を今しておりますので、それの交付決定が来ますと、加工施設を山内町のほうにつくりまして、そこでイノシシの加工をして、それから、どうしても商品にならない部分がございますので、そこについては、産業廃棄物として長崎県の肥料会社のほうに搬送するということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、市内で屠殺した分は、そっちの産廃屋さんの肥料屋のほうに持ち込まれるということで理解していいわけですかね。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今までにつきましては、先ほど言いましたように、埋めるか、自家消費をするかということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、埋めるということがあったわけですけど、私たちも時々埋めにお手伝いに行くわけですけど、なかなか山の中で穴を掘ってというものは簡単にいかずに、それなりに埋設しているのが現状だと――僕らだけかわかりませんけど、そういう状態にあるわけです。そんな中で、それをまたイノシシさんは共食いもあると聞きます。それがまたいろんな病気の発生に今のところはなっていないのでいいわけですけど、今、鳥インフルエンザあたりは大きな世界的な問題になっております。そんなものがイノシシを起源にして、養豚農家あたりの大きな問題になっては困りますので、ぜひこれの処分というものが大事だと思います。

そんな中で、私はこのイノシシを肥料会社に持ち込む場合に、幾らの経費がかかるかわかりませんけど、この6,000円という１頭の処分費をうまく利用すれば、それを回収して処分ができるような形で、なるだけいい、おいしいイノシシは加工に回り、それなりのは肥料になって、また世の中のために役立ってもらえばイノシシも報われるんじゃないかなと思いますので、ぜひそういうことも検討してもらって、イノシシ対策をぜひ頑張ってもらいたいと思います。

次に、畜産問題について移りたいと思います。

市内ではどんな畜産農家がおられるかということですけど、この前、名前は何ですかね、農業のことが、生産高が言われたわけです。部門別にいろんな畜産家がおられますけど、どれぐらいの戸数と販売額があるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

畜産農家の戸数と販売額ですが、これは平成17年度のデータで申しますと、乳用牛が13戸で382頭、販売額が１億6,000万円、それから、肉用牛が177戸の3,960頭で８億6,000万円、それから、豚が15戸の１万300頭の６億1,000万円、それから、鶏ですが、７戸で21万6,000羽、９億3,000万円、合計で212戸の25億6,000万円というデータがございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、市内には合計しますと212戸の農家が25億6,000万円の、粗収入ですけど、畜産での売り上げをしているというふうな大きな数字があるわけです。今、そんな畜産農家が大変苦しんでいるわけです。

今、畜産農家の置かれている状況というものをどういうふうに把握をされているかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

畜産農家の今の現状でございますが、先ほど質問者が言われましたように、まずは飼料になる原材料の高騰でございます。それが一番問題になっております。それからもう１つは、畜産農家の高齢化の問題、それから後継者の問題、そこら辺が今問題になっている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

国、県の政策として、畜産農家に対する事業はどんなものがあるかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今、うちのほうが取り込んでいる国、県の事業でございますが、まず、死亡獣畜処理対策事業ということで、死亡等による自己の家畜を搬送する経費の補助金がございます。これについては約400万円程度。それから、さが畜産自給力強化対策事業ということで、これは哺乳のときのロボットとか、あるいはデスクモアですか、そこら辺の機械の導入事業関係、これが約130万円程度。それから、耕畜連携資源循環型農業推進事業ということで、これは発酵舎とか畜ふん尿攪拌発酵装置、そういう施設整備に対して約700万円程度の補助を取り組んだ、これは19年度の実績でございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、数字を、19年度の実績を聞いたわけです。212戸の農家が25億円の売り上げをしながら、いろんな事業というものに対して、我々農業に携わった者では、19年度はこれぐらいの事業にしか農家は手を挙げなかったんだなということを思うわけです。裏を返せば、それだけ意欲を持って何かをして、どうにかしたいというふうな気持ちが弱くなっているのが現状じゃないかと思っています。今は厳しい時期かもわかりません。しかし、飼料高が全国的に大きな問題となっている今、自給飼料を多くするためにも、ぜひ飼料用米、麦わら、稲わらの回収、青刈りトウモロコシ等、粗飼料生産の基盤が確立できるような指導をやってもらい、元気な畜産農家が育ち、また、新しい補助事業で新しいチャレンジができるような指導に取り組んでもらうことを希望したいと思います。

次に、農業後継者についてです。

今、市内の認定農業者は、20代が１名、30代が７名、40代が33名。この20代、30代、40代

の30年で見ますと、１年に1.4人、２年に３人ぐらいの認定農業者しかいないということです。これは今議会でも議論され医者不足が叫ばれていますけど、市内でお医者さんになろうという方とどちらが多いかなというふうな現状ではないかと思います。今、後継者不足というものがそれだけ深刻だということを理解してもらいたいと思います。

それで、その認定農業者が50代になりますと50名、60代になりますと48名ということで、今、認定農業者会には合計140名の仲間がおります。確かに今の農業は兼業農家が大半で、心配はないよと言われるかもわかりません。しかし、前にも述べたように、施設園芸や畜産農家は専業農家として生活しているのです。その後継者対策というものが、今言われましたように、高齢化と後継者不足というものが大きな問題となっています。その点を今からぜひ我々は、先ほどの市長でありませんけど、地元のものをたくさん食べて、それをＰＲして消費拡大につながれば、元気な農業になるんじゃないかと思います。

私は農業一筋40年近くやってきました。そして今、そのころの仲間の子どもたちの結婚式に呼ばれます。そのうち、「子どもが農業後継者としておれの後を継いでくれたよ。そして、きょう素敵なお嫁さんを迎え、２人で継いでくれますよ」と胸を張って言える専業農家を見ることはありません。本当に日本の農業は、武雄の農業は、日本の食料は、10年後、20年後、どうなることでしょうか。私は不安でいっぱいです。

特に、山つきの農村地帯では、今言いましたように、多額の投資をやって、それを返済するので精いっぱいで、さらなる投資というものが難しいのが今の現状です。そんな中で、武雄では安心・安全の日本初のレモングラスの産地、秋から始まるであろう日本一おいしいイノシシ加工、いや応なしに日本人の食の目は武雄に向くと思うのです。

そこで、それらにできる流通にぜひこれらの農産物を乗せてもらいたいと思います。その点、武雄市長はこの新しい施策をどう農業振興に結びつけておられるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件にお答えする前に、ちょっと議員の御質問を承りながら思ったことがあります。恐らくこれからの、例えば、武雄みたいな中山間地を抱え、そして、そんなに大規模にできないところが他地域と競合しても、同じことをやっても、まず勝てないだろうというふうに思うんです。それは補助をたくさんすれば何とかなるかもしれないけれども、これだけ財源がない中で同じことをやっても、それは厳しいというのは、これは自明だと思うんです。

そこで、１つ提案があるのが、長崎県に松浦、あるいは西海、大分県の湯布院の横に――ちょっとすみません、名前は今ちょっとど忘れしましたけれども、そういったところが今どういうふうにして農業再生を図っているかというと、民泊であります。今は民宿と言わずに民

泊と言って、１人当たり7,000円ぐらい取りよんさるですね。これが農業外収入で、基本的に松浦市でしょうか、上げられているという報告を私は受けていますし、現に大分県に伺ったときも、やっておられる方が非常にもうかるという話をされて、これが非常に私が参考になったのが、例えば、米は自分のところでとっているけれども、野菜は隣の山口さんのところからとっていてというふうにして、そこである意味、自給自足をやっているわけですね。自給自足をやっていて、泊まった方々から１泊、２泊で泊まり賃をとって、そこで御飯を出して、なおかつ、それをお土産として、また漬け物とか買っていくということで、これこそがこれからの自給自足になるし、グリーンツーリズムにもなるし、一つの形態だというふうに思っています。

今、日本の観光動態を見ていると、豪華けんらんなところに泊まる方々もいらっしゃいますけれども、そういうふうに日本の原風景の残っているところに自分の身を浸したいという方々も、団塊の世代以上の方々ではふえているというふうに認識をして、それはＪＴＢの皆さんたちもそういうふうにおっしゃっています。

そこで、もう１つ提案があるのは、私たちは30軒近くの旅館、ホテルも抱えております。いらっしゃいますし、一生懸命頑張っておられます。そこで協働をして、例えば、清掃であるとか、英語で言うとオペレート、そういう管理ですね、管理統合は旅館、あるいはホテルのほうが一日の長どころか、やっぱりかなり進んでいますので、そこと専業農家、あるいは兼業農家のおうちと組み合わさってやると、そういうことにすると食料も大量にとれるといったことからすると、これはほかにない強みだと思うんです。松浦も西海も農業経営者の方が一生懸命頑張っておられますけれども、やはりひとつそこに旅館、旅行業態が加わることによって、これから進んでいくと。それを称して、私は奥武雄温泉というふうに言えると思うんですね。それとともに、例えば、どうしても夜、御飯を出せないといったときは、じゃ、近くにこういうふうに行ってくださいというふうにして、２次会はそこでやってくださいというふうにして、中町であるとか、松原であるとか、いろんなそういったところの組み合わせも私はできるというふうに思っていますので、これは民泊というのがこれからの一つの大きな流れになると思います。

長崎県が県を挙げて行われておりますし、佐賀県もできればそういう方向で制度を、これはすぐには、宿泊業の関係があります。免許がありますので、ぜひこれは県の認可でありますので、これは私も県にはきちんと言っていきたいというふうに思っています。もう少し制限を緩めてほしいということを言っております。これが１つの私の提案であります。

それを踏まえて、先ほどレモングラスとイノシシとありましたけれども、これはきっかけであります。あくまでもきっかけであって、私はレモングラス、あるいはイノシシで農業問題がすべて解決するということは思っておりません。しかし、武雄でもできるんだ、あるいは自分たちでもできるんだと、この自信がやっぱり大だというふうに思っております。そう

いう意味で、きちんとしたものを生産してほしいというふうには思っております。レモングラスも農薬ばりばりではなくて、無農薬、有機できちんとつくっていただければ、消費者は舌が肥えています。そういう意味で、きちんとしたものをつくっていただく。幸いにして伊勢丹の新宿店、これは日本で最も注目されている流通、そしてデパート業界が、武雄のレモングラスをぜひ使いたいということで、７月の半ばから武雄のレモングラスのフェアも始まります。これは大きな大きな武雄の農業の再生の一つのきっかけになると思います。これに続いて、例えば、橋下の小麦であったり、あるいは東川登のイチゴであったり、それに続くように私はつなげていきたいというふうに思っております。大きなきっかけにしていき、山内のチンゲンサイもしかりであります。そういう意味で、私は続けていきたいというふうに思っておりますので、商路の開拓は私の仕事だというふうに思っています。だから、こういうおいしいもんがとれたとかいうのをぜひ私のところに寄せていただきたい。

最後にしますけれども、私はちょうど１週間前、嬉野のイチゴを食べました。今まで食べた中では最もおいしいイチゴでありました。１週間前です。これはいろいろちょっと聞いてみると、農薬をほとんど使っていない。ただ、色も形も悪かです。悪かばってんが、物すごくおいしかったです。ああ、これが本来のイチゴだというふうに思いましたので、そういうところもぜひ生産者の方々も研究をしていただいて、これも出すことによって恐らく広がっていくと思います。季節外れで色、形は悪いけれども、おいしいものは加工品として出せます。そういう意味で、ぜひそういった研究も山口議員を先頭に一生懸命我々とともにやっていければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、グリーンツーリズムの話も出たわけですけど、それも一つの方法と思います。それと同時に、ぜひ今、流通を確保されて、今ある農産物がどんどん売れて所得増大につながるような形を一緒に努力したいと思います。

その中で、私は農産物の販売ということで、川登サービスエリアが市内にあるわけです。どうにかして、あそこで販売ができないかなということを考えております。そして、市長はトップセールスということで言われます。今、農産物の販売は農協を通じて市場への出荷が大半です。そんな中で、ぜひ生産者と一緒に市場に立ってもらって、トップセールスとして地元の農産物のＰＲをしてもらい、元気な農業ができることに頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、新たな工場団地の開発整備についてお尋ねします。

今回、北方町西宮裾地区に計画されている工場団地の計画内容と、もしわかれば雇用者をどれぐらい考えておられるのか。また、第１号の創業開始はいつごろなるのか、わかる範囲

内でよございますので、この工場団地のロマンをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

工場団地の件でございますが、市内には、御存じのとおり、県、それから武雄市が所有している今現在の団地については、若木に残り１ヘクタールしかないということで、団地の計画については以前から県のほうにも要望しまして、去る５月16日に県のほうから市に産業集積エリア整備地ということで決定をされております。

場所につきましては、先ほど言われましたように、北方町の西宮裾と、それから朝日の川上のちょうど境ぐらいになりますが、場所については今から測量をして最終決定になるということでございます。

それから、規模でございますが、総面積で今現在考えておるのが約27ヘクタール、そのうちに有効面積、これは企業のほうに分譲できる面積ですが、約20ヘクタール、そのうちに県としては、少なくとも１カ所は10ヘクタール以上の用地をつくりたいということでございます。

それから、総事業費、これについては測量等をやってみないとわかりませんが、県の今の試算では約30億円程度と考えるということで、この費用の負担につきましては、県と市が折半で費用を出して、あと売れた場合については、それを県と市が分けるということでございます。

そういうことで、今現在、今度の６月議会のほうにその調査費の負担金の計上をお願いしておりますので、それが通りますと７月ぐらいから県のほうで調査を開始されるということです。今後の予定でございますが、ことし測量、基本設計をしまして、21年度に実施設計と用地買収がされて、造成が22年度ということで、早ければ23年４月ぐらいには企業のほうに分譲ができるということでございます。

それから、雇用の関係でございますが、今現在、若木のほうにつきましては、あそこが工場用地として約27ヘクタールございます。今回の場合、若干少ないですが、今、若木のほうが約500名程度の正職員、それからパートを含めていらっしゃいます。当初の計画では全部埋まって大体800名ぐらいの規模の雇用を予定しておったわけですが、まだその計画どおりにはいっていないという状況です。そういうことで、それくらいの規模は考えてみたいということでございます。

それから、業種につきましては、いろんな業種ございますが、特に自動車の関連、それから半導体関連のそういう企業の誘致に今から取り組んでいきたいということで、一日も早く分譲ができるように、我々としては頑張っていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、新しい工場団地の構想というものをお聞きしたわけです。今、武雄市民は安定的な雇用の場というものを一番望んでおります。ぜひ早急なる開発が進んで、なるだけ早い時期に分譲が開始されるようになることを期待したいと思います。

次に、この工場団地が本格的に稼働することにより、従業員の足、すなわち道路整備も工場団地整備に並行して進行していくんじゃないかと思うわけです。その点、どうなっていくのかをお尋ねしたいわけです。

まず、恐らく国道498号と接続すると思うわけです。その場合、若木や北方方面はいいと思うわけですけど、武雄となると、今、私たち朝日の者から見ますと、今、農業従事者とトラブっている農道が最短距離ということで、道路があるわけです。それらを含めて、武雄市街地への道路整備というものはどうなるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

道路整備についてのお尋ねですが、現在、武雄市の財政状況は大変厳しいものがございます。建設課の道路関係の予算としましては、まだ５億円足らずでございます、維持費を含めましてですね。そういう状況でございますので、道路整備につきましては、歩行者の安全を第一に、交通量等の状況を見ながら考えていきたいと。まず、緊急性のある道路から改良しておりますので、そういうところから、議員おっしゃられる道路がどこかわかりませんけど、状況を見ながら考えたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

次に、長崎新幹線着工の話が出てきたわけですけど、その中で、肥前山口から武雄温泉駅までの複線化が具体的な問題として出てくるわけです。

そこで質問ですが、武雄市内には幾つの踏切があり、また、その安全対策はどういうふうに考えておられるかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

踏切の箇所数でございますが、新幹線絡みで武雄温泉駅から肥前山口方面で申し上げますと、全体で武雄市内でいきますと９カ所ございます。そのうちに、これは踏切の種別がござ

いまして、第１種、これについては自動の遮断機があるところですが、そこが７カ所ございます。それから第４種、これにつきましては遮断機、警報機のない踏切、これが２カ所ございます。

それから、対策でございますが、今回、新幹線の着工までに、嬉野から武雄を含めて、小城とか神埼とか沿線の自治体で振興連絡協議会ですか、それをつくっておりますが、その中でも特に武雄から東のほうの自治体については、踏切の安全対策の問題が相当議論をされて心配をされています。そういうことで、その協議会の中で、県、それからＪＲのほうにそこら辺の安全対策について要望をしていくということで考えています。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ安全な形でできることを希望します。

それと今、国道498号のバイパスが武雄市内にようやく工事が、用地のほうから始まっていくわけです。その点、武雄市内での進捗状況と朝日町内の路線発表等はどういうふうに計画されているかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

498号の若木バイパスの件ですが、今現在、土木事務所に問い合わせましたところ、これまでは設計が終わっていると。そして、ことしはボックスの設計をすると。道路の設計は済んでいます。ですから、ことしは構造物、ボックスの設計をする。それともう１つは、用地測量をするというところでございます。（発言する者あり）

それと朝日地区の路線発表につきましては、若木地区の事業の進捗を見ながら、どういうふうにいつ発表するのかはまだ未定ですが、何しろ若木の進捗状況を見ながら考えるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

今、工場団地構想もあります。そして、それに関連するかと思いますので、ぜひ早急なる路線あたりの発表があれば、それに伴う地域開発というものができ、安心して農業者もできるんじゃないかと思って、その点、よろしくお願いします。

次に、スポーツ振興と学校施設の開放についてです。

まずもって朝日町住民の悲願であった町民グラウンドが朝日町グラウンドの整備として、今までの２倍の広さを持ってできつつあることに対して、朝日町民は大変感謝し、喜んでお

ります。本当にありがとうございました。

さて、今後、このグラウンドを、学校施設である小学校グラウンドでありますけど、これをぜひ市民スポーツの拠点として利用することができないかなと、今、朝日町民の中では考えられておるわけです。

この点、小学校の施設ということで、学校の教育が優先しますけど、その上に立って、ぜひ時間帯とか、いろんな問題を解決しながら、学校施設であるグラウンドを市民スポーツの拠点にするようなことはできないか、教育長にお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

おっしゃいましたとおり、朝日小学校のグラウンドにつきましては、ことし８月に完成の運びということになっております。

このグラウンドにつきましては、第一義的には学校のグラウンドということでございますので、学校の就業時におきましては、学校の活動を優先させていただきたいというふうに考えております。

ただ、朝日町民の皆様がこのグラウンドに寄せる期待、社会体育施設として利用したいという気持ちは十分理解をいたしておりますので、私どものほうにも小・中学校の施設につきましては開放するという基本的な方向も持っておりますので、そこら辺は学校、それから地域の皆様、それと私ども教育委員会と話し合いながら進めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今回の朝日小学校のグラウンドにつきましては、私自身、総務省に足を運んで、総務省の特別な理解でこの補助金を引っ張ってまいりました。そのときに総務省から話がありましたのは、あくまでもこれは合併特例債の有効活用でございますので、朝日町民のみならず、武雄市民、合併の一つの象徴として使ってほしいということで、それであれば私は認めてもいいということを担当課長補佐から言われました。担当課長補佐といっても私の後輩でございますけれども、言われました。

そういう意味で、先ほど教育委員会からありましたのに加えて、これは武雄市民全体の皆さんたちからかわいがってほしいという思いが市長としてはありますので、それもぜひ御理解を賜ればありがたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

もとより武雄市民というものが大事な優先と思っています。そんな中で、子どもたちと共存共栄しながら、ぜひ市民スポーツの拠点になるような方策を検討してもらえばありがたいと思います。

これをもちまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。